

## 江別市行政審議会 答申書（案）

平成25年8月21日

江別市長 三好 昇 様

江別市行政審議会  
会長 佐藤 克之

えべつ未来づくりビジョン<第6次江別市総合計画>素案について（答申）

平成25年2月8日付24政策第147号をもって諮問のあった標記の件について、本審議会は、平成26年度をスタートとする向こう10年のまちづくり計画である「えべつまちづくり未来構想」を軸に、将来都市像とこれを具現化する「まちづくり政策」の方向性や基本方針、そして、江別市としての新たな取組となる「えべつ未来戦略」の方向性や実現に向けた展開を慎重に審議した結果、妥当と判断し、別紙意見書を付して答申します。

なお、「えべつまちづくり未来構想」や「えべつ未来戦略」の実施にあたっては、本計画策定のために市民との協働により進められた「えべつ未来市民会議」の提言内容を真摯に受け止め、審議経過における各委員の論議や意見について留意し、関連する個別計画等と連携を図りながら、本計画の実現に努められるよう要望します。

全国的に、年少人口や生産年齢人口の割合が減少する一方で、高齢者人口の割合が増加し、地方自治体の将来の政策のあり方が問われている現在、「江別市自治基本条例」が施行されてから初めての総合計画となる『えべつ未来づくりビジョン<第6次江別市総合計画>』は、市民協働によるまちづくりに重点を置くなど、10年後の江別市の目指すべき方向性としては妥当であり、また、新たな試みである「えべつ未来戦略」についても、その戦略の方向性は適正な内容と判断する。

については、市民等へ分かりやすい市政情報等の提供に心掛けるとともに、本計画と個別計画等との連携を密にし、市民や企業、行政などの様々な主体が「協働」しながら、具体的な施策の展開を図り、計画を確実に進めていくために、下記意見に留意されることを要望する。

- 1 総合計画は、市が取り組む基本的な方向性を定めるものであり、具体的な施策や事業などは、様々な分野で定める個別計画などに位置づけていくことになることから、具体的部分がどうしても漠然としてしまうと考える。実際の政策がどのように実行されていくか、分かりやすい表現になるよう検討されたい。

個別計画等は、総合計画と整合を図りながら取り組んでいくこととなるが、その結果、いろいろな副次的効果が生まれ、それを縦横につないでいくことにより、他のいろいろな分野で効果が期待できるということを基本に据えて、事業執行に努められたい。

- 2 「協働」について、江別市全体をみると、様々な主体による連携の場やお互いの共通理解を深められる場が少ないと思われることから、人と人とのつながりという部分で、誰もが当事者になれる枠組みが必要であり、その枠組みをつくるよう努められたい。

市内には、豊かな知識・経験や色々な素晴らしい発想を持っている市民がおり、また、大学が4つもあるため、これまでのように必要なときにだけ声をかけるという関わり方ではなく、定期的に集まれるような様々な会議体が存在できる取組を行うよう努められたい。

「大学連携」について、地域課題の解決といった側面においても、大学と連携するというものを「まちづくり政策」の中でも検討されたい。

また、「協働のまちづくり」については、解説が必要であると考え。「江別市自治基本条例」があり、その延長線上に協働の戦略があるため、そのことを明確に分かりやすく市民に説明できるよう、用語の定義をきちんと行うとともに、全体を通して分かりにくい用語には解説を配置するなど努められたい。

- 3 「産業」について、「えべつ未来戦略」だけでなく、「まちづくり政策」でも、生産者から流通に携わる人まで、1つの商品を通じてお互いに連携を図っていくという共通認識を持って進めることができるよう検討されたい。

江別市で産業の活性化に取り組むにあたっては、生産行為にばかり焦点を当てるのではなく、生産行為を通じて江別市の中に新たなコミュニティが生まれ、人と人との新たな関わりができ上がってくるという側面にも、焦点を当てることによって、将来にわたって産業が継続していくものと考え。

最初から結果を見ながら、そのために取り組むのではなくて、ある程度目標を持ちながら、その目標に行きつくまでの市民や産業同士の関わり、そして、お互いの理解を深めていくことの方が、大事であることに留意されたい。

4 「えべつ版コンパクトなまちづくり」について、駅周辺以外の地区も十分考慮する内容ではあるが、今後10年間でどう具体化していくかが重要であることから、現実とかけ離れないように、あるいは、そのニュアンスが市民にきちんと伝わるように考慮の上、これからの施策展開に努められたい。

また、「交通ネットワーク」の充実について、本計画に謳ったことが実現できる取組を早急に検討し、本計画ができると同時に可能な限り何らかの形で市の意思表示として示すよう努められたい。

5 「シティプロモート」について、江別市として、どの部分を一番大切に情報発信するのか、第一に情報発信すべき項目は何かという戦略を組み立てることが、真の「シティプロモート」であると考え。江別市として今一番進めたい政策をどう発信していくかをこの戦略で明確に打ち出すよう努められたい。

また、政策的に重要度の高い情報を優先的に発信すべきと考えるが、今後「えべつ未来戦略」が重要度の高い政策になるのであれば、これをもとに、どの部分を優先して情報発信するかを検討されたい。

特に、「えべつ未来戦略」の戦略1から戦略3により、中心となる対象を定めるなど、経営戦略を立て、それをもとに売り込んでいくのが江別市のシティプロモートの形だということ、しっかりとこの戦略4で打ち出すよう努められたい。

6 江別市のブランド化を総合的、かつ、一体的にやるということが、今の江別市で欠けている状況であると考え。江別市と企業などの間で、PRのための共同の組織のようなものをつくるなど、行政が主体となるのか、あるいは行政以外が主体となるのか、情報発信の主体の組み合わせを上手く考えられるような仕組みづくりについて考え、それを個別計画や事業計画等にしっかりとつなげていくよう努められたい。

7 達成度を測る指標について、特に「えべつ未来戦略」の「協働によるまちづくり」については、協働の戦略の大前提となる「協働」の概念が、市民に浸透しているかどうかで、この戦略の進捗状況を測ることができると考える。「協働によるまちづくり」とは何かということ、市民が実際に理解できるかどうかを踏まえた上で、指標を設定するよう努められたい。

また、達成度を測る指標値をアンケート調査により求める場合、指標によっては、複数の設問を設定して、総合的な判断のもとで内容を把握するとともに、市政情報を事前に多く発信したり、アンケート調査を実施する窓口に江別市に関する情報を設置するなど、アンケート調査の実施方法や情報発信のあり方を工夫するよう努められたい。

併せて、指標の内容によっては、かなり困難なものもあるため、戦略の達成度がきちんと分かるようなアンケート調査の手法等について、今後検討されたい。

本 体 素 案	答 申 意 見
<p>■ 進行管理</p>	<p>◎ 1年の中で評価（チェック）と改善（アクション）を随時行うように努められたい。</p>
<p>■ まちづくり政策 ○「02 産業」</p>	<p>◎ 農業だけではなく、他の産業と連携しながら江別の農産物の価値を高めていくべきであるので、「都市型農業の推進」の「農畜産物の高付加価値化」の文章の中に「産業間連携」の内容を追加することを検討されたい。</p> <p>また、「農畜産物の高付加価値化」の文章の中の「他品種」という表現について、「他産地」などの表現を検討されたい。</p> <p>◎ 「観光による産業の振興」の「江別ブランドの確立」と「観光・イベント情報の発信」の順番について、この「観光・イベント情報の発信」が先にある方が、自然ではないかと考えられるため、項目の順番について検討されたい。</p> <p>◎ 「観光による産業の振興」の「江別ブランドの確立」について、江別の場合は、観光と物産が非常に密接に繋がっているため、観光より「物産」の方が連携しやすいと考える。今後の観光の広がり担保の上でも、「物産」という言葉を追加することを検討されたい。</p> <p>また、江別産品と観光を結びつけたブランドの確立という意味合いを明確にするように、「物産と観光を融合した江別ブランドの確立」などの表現を検討されたい。</p>
<p>○「03 福祉・保健・医療」</p>	<p>◎ 「障がい者福祉の充実」について、「就労への支援」の項目を追加し、教育、福祉、労働の関係機関などとの連携の仕組みの確立や、福祉的就労への支援の充実や一般企業の就労へも繋げていけるよう検討されたい。</p> <p>◎ 「日中活動への支援」について、地域で安心して生活できる交流の場の確保や、ボランティアの育成によって、障がいのある方々が地域交流に参加しやすい仕組みを確立するなど、より踏み込んだ表現にすることを検討されたい。</p> <p>障がいのある方が地域で自立した生活を送れるように、障がいのある方の就労に関して、きちんと表現しておくことが必要であり、障がいのある方々が、働くことを通じて社会参加したり、自己実現したりするという内容を表記することを検討されたい。</p>
<p>○「05 都市基盤」</p>	<p>◎ 「交通環境の充実」に関して、公共交通の利便性の向上は、バスの本数を増やすということだけではなく、バスの接続をよくすることによって、格段に利便性が向上する可能性があるため、もう少し踏み込んで表現されたい。公共交通の「再構築」は、乗り継ぎの部分など、いろいろな面で実施可能であると思うが、「活性化」は、アクティブな感じを受けるとともに限りなく不透明であるため、「最適化」など表現を工夫されたい。</p> <p>公共交通については、バス会社相互の絡みもあると思うので、役割分担など、工夫されたい。利用の仕組みをどう「活性化」させるかが大切であり、利用者のニーズに合わせて、駅周辺から離れたところは、スクールバスや福祉バスの空いている時間を利用するなど、具体的な取組を検討されたい。</p>

本 体 素 案	答 申 意 見
<b>■ まちづくり政策</b> ○「07 生涯学習・文化」	◎ 「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」の「文化・歴史遺産の保存と継承」について、まさに市民に知ってもらうための取組が一番重要な部分であることから、「市民に知ってもらう」ということを強調した表現になるよう工夫されたい。
○「08 協働」	◎ 「協働のまちづくりの推進」の「コミュニティ活動への支援と相互連携」や「市民活動団体の支援と相互連携」の「支援」という表現を「推進」に置き換えて、行政が市民と一体的に取り組むという表現を検討されたい。 ◎ 市の政策を謳った部分となるため、「支援」という言葉がたくさん使われているが、できるだけ言葉の使い方は統一されるよう努められたい。

えべつ未来戦略	答 申 意 見
<b>■ 戦略1</b> ○戦略の方向性	◎ 協働は不可欠だが、推進していく環境が十分に確立されたとは言えないという内容が記載されているので、現在の協働が進んでいない状況の基本となるデータを把握しておかないと、後日、協働がある程度進んだ状況で、データの比較ができないのではないかと危惧する。
○戦略プロジェクト1A 「多様な主体が協働するまちづくり」	◎ 「協働によるまちづくり」について、高齢者の生きがいにもつながるような要素を盛り込み、高齢者も地域課題の解決に関わっていくことを明確にするよう努められたい。 ◎ 「市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体」は、横の組織や団体の繋がりのことであるので、さらに縦の世代間の繋がりも含めた表現の追加について検討されたい。 ◎ 65歳から75歳までの間の現役を退いた経験や知識の豊かな人たちに活躍してもらいたいと考えているが、そういう人たちのことは、「高齢者」とは言えないと考えるので、「高齢者」ではなく、別な言葉で表現できないか検討されたい。例えば、「それぞれの豊かな経験を活かし」というような表現を追加すると、生涯学習だけに目を向けるのではなくて、自分たちのこれまでの経験や知識を地域づくりに活かしてもらうということに繋がると考える。

えべつ未来戦略	答 申 意 見
<p>■ 戦略1 「ともにつくる協働のまちづくり」 ○戦略プロジェクト1B 「大学が活躍するまちづくり」</p>	<p>◎ 「大学の得意分野を活かした地域の活性化支援」の主な内容について、「支援」という表現だと、行政目線が強くなり、主体がどこかにあってそれを支援するという形になってしまい、「支える」というイメージにも受け取られてしまうので、「促進する」という表現にするなど工夫されたい。</p> <p>戦略1については「協働」がテーマとなっているので、行政が支援するというのではなく、様々な主体が相互に関与すべきであるという意味で、「支援」という言葉はできるだけ避けるよう努められたい。</p> <p>ただし、「支援」といっても様々な支援の仕方があり、「促進」にしても市が主体となった方法もあれば、市民が主体となった方法もあるので、用語の解説をもっと丁寧にするなど検討されたい。</p>
<p>■ 戦略2 「えべつの将来を創る産業活性化」 ○戦略の方向性</p>	<p>◎ 江別市の産業は、文章通り読むと、大変深刻な状況なのではないかと受け取られてしまうので、人口当たりの産業規模が小さいという現状分析の記載の部分と、産業活性化に取り組んでいくという記載の間で少し文章を工夫して、江別市にはまだ伸び代があるということを表現するとともに、江別市の性質を踏まえた補足説明を検討されたい。</p>
<p>○戦略プロジェクト2A 「産業間連携等による産業の活性化」</p>	<p>◎ 戦略プロジェクト2Aと2Bが、概念的なタイトルになっていることから、タイトルだけを見るとかなり類似したものと感じるため、戦略プロジェクトや推進プログラムの内容の文章を修正し、2Aと2Bの区別をもう少し明確にするよう努められたい。また、2Bが「農業」に焦点を当てた戦略であることが明確になるような表現を検討されたい。</p> <p>なお、いずれも、本計画が市民の目に触れた段階で、それをどう具体化していくのかという過程が今後問われてくるので留意されたい。</p> <p>◎ まちづくり政策「02 産業」では、「中小企業の経営の充実」ということがきちんと謳われているが、江別市は中小企業の集まりで成り立っているまちであるので、「えべつ未来戦略」でも、中小企業について焦点を当てるような表現となるよう努められたい。</p> <p>◎ 「マーケティングの視点に基づいた産業振興」について、この部分は、江別市内の中小企業を対象にした項目であるので、「中小企業」を取組の主体として記述することで、中小企業に対する支援であるということをより明確にすることを検討されたい。</p>

えべつ未来戦略	答 申 意 見
<p>■ 戦略2 「えべつの将来を創る産業活性化」 ○戦略プロジェクト2A 「産業間連携等による産業の活性化」</p>	<p>◎ 「地域に根差した商店街の魅力づくりへの支援」について、学生に限定せずに、定年退職したばかりの方が持っている技術、知識、そして趣味などを活用したり、次の世代に伝えていったりできるように、元気な高齢者が、商店街等で活躍できる場をつくっていく取組について検討されたい。</p> <p>◎ 「大学・研究機関との共同研究の推進」や、戦略プロジェクト2Cの「企業誘致のための条件整備」に、環境そのものをビジネスにしている企業に対する支援や、立地しやすくなる環境整備というような内容など、環境ビジネスについて盛り込めないかを検討されたい。</p> <p>併せて、「新製品開発・ブランド化」は、学生と連携しながら商品開発をするという観点から、市内企業の協力により江別の地場産品を活かせると同時に、学生との連携を産業につなげていくこともできるので、この部分の表現を検討されたい。</p>
<p>○戦略プロジェクト2B 「農業と2次産業・3次産業との連携による広域的な展開」</p>	<p>◎ 「『食』の付加価値を高める産業の集積」について、素案の表現では、市外の企業を新たに江別に誘致する内容だけになってしまっているので、既存の市内企業に対しても積極的に支援をしていくのであれば、「食関連産業の育成」という表現を用いるなど検討されたい。</p>
<p>○戦略プロジェクト2C 「雇用の創出と人材育成の支援」</p>	<p>◎ 「潜在労働力の掘り起こし」について、「働きたい人」の部分で、具体的に「若者、女性、高齢者」と記載するよう検討されたい。</p>
<p>○戦略プロジェクト2D 「地域資源の活用による観光の振興」</p>	<p>◎ 戦略プロジェクト2Dの「観光資源のパッケージ化」について、江別市における「観光」とはどういうことか、江別ならではの観光のあり方をこれから見つけていくという決意表明を検討されたい。</p> <p>「物産」もそうであるが、ウォーキングのようなイベントなども江別流の観光と捉えることができるので、「江別ならではの」という表現を追加するなど検討されたい。</p>
<p>■ 戦略3 「次世代に向けた住みよいえべつづくり」 ○戦略プロジェクト3A 「社会全体で子どもを産み育てる環境づくり」</p>	<p>◎ 「子どもを安心して産み育てられる支援体制の整備」について、「産み育てる」がタイトルの中で表現されているので、現在進めている子どもを産み育てるための支援策と一体的に進めていくことを説明の中で検討されたい。</p>

えべつ未来戦略	答 申 意 見
<p>■ 戦略4 「えべつの魅力発信シ ティプロモート」 ○戦略の方向性</p>	<p>◎ 「選ばれるまちづくり」のために、産み育てやすい環境の他にも、具体的取組として、学校教育の中で食や自然などの江別らしさや江別の特性についてもPRできればよいのではないかと考える。他の自治体と違う特徴を明らかにしていかないと、差別化を図れないと考えるので、より積極的に江別市をアピールできるポイントを個別計画等で検討されたい。</p>
<p>○めざす姿</p>	<p>◎ 戦略1から戦略3に基づいてシティプロモートをしていくという大きな方向性を強調することになるので、ここで「江別産品」などの具体的内容を表現するのが相応しいかどうかを検討されたい。</p>
<p>○戦略プロジェクト4A 「ニーズにあわせた効 果的な情報発信」</p>	<p>◎ 具体的取組として、「住んでもらうため」、「来てもらうため」のイメージづくりをする上で、江別市の自然景観、農産物、食品などの情報をコンパクトにまとめて、視覚に訴えて目を引くような資料を新たに大量に作成し、それを市内各団体に配布して、市民一人ひとりが広報マンになっていくような取組を検討されたい。</p> <p>◎ 「市民や企業が主体となるまちづくり情報発信の支援」の主な内容について、「企業間連携による新商品開発、付加価値化に向けた取組を支援します」の部分は、戦略プロジェクト2Aの「① 市内企業等が主体となったネットワーク構築の支援」に関わる内容ではないかと考える。</p> <p>戦略プロジェクト4Aの③のタイトルの中に「まちづくり情報発信」があるので、社会貢献的な活動を行っている企業の情報などを行政が発信するという内容にした方が、まとまりがよいと考える。まちづくり情報の中には、地場産品を活用した商品化ということも含まれるのかもしれないので、内容について検討されたい。</p> <p>その内容をあえて戦略4に盛り込むのであれば、戦略プロジェクト4Aの「② 江別市に来てもらうための観光・産業情報の発信」の中に盛り込んで、戦略プロジェクト4Aの③の主な内容については、「まちづくりへの積極的な市民参画や企業の参画を促す情報発信に取り組む」という内容にするなど検討されたい。</p> <p>戦略プロジェクト4Aの③のプログラム名称と「主な内容・特徴」欄の記載の整合性がとれるような文章表現を工夫されたい。</p>

えべつ未来戦略	答 申 意 見
<p>■ 戦略4 「えべつの魅力発信シ ティプロモート」 ○その他</p>	<p>◎ 江別市の情報をどのように伝えていくかということが重要であり、江別市のことを分かってもらえるような対策を、本計画に基づき考えていくことが大切であるとする。個別計画との関連をきちんと位置づけることと、一般市民の方に向けた分かりやすい表現とするほか、取組の例として、何かのイベントなどでパンフレットとともに5～10分間ぐらいのPRを行うことなどを検討されたい。</p> <p>◎ 総合計画と個別計画等との連動性を持たせるためにも、具体的に身近な話題などを題材に、小さな取組でもよいから、市内外へ情報を伝える工夫をシステム化して継続的に行っていただきたい。併せて、プロモートする際には、政策よりも細かい施策等の部分で、具体のサービスに関する身近な話題が一目で分かるようなパンフレット等をつくると、より魅力を感じられると考える。そうすることで、大きな総合計画がどういうふうに組み立てられているか、あるいは、どのように生活と密着しているかというイメージがより伝わるものとする。</p> <p>◎ 具体の取組として、江別市へ転入してきた子育て世代の方に、江別市の子育て支援事業に参加した人たちの意見や取組などを書いた具体的な資料を渡すと、市外に口コミ等で伝わるのではないかと考える。転入して来られる方は、自分の住んでいたまちとの比較において、新鮮な視点を持っているので、その視点を大事にすることで、市に対して求めていることを聴くことができ、また、個別計画の中にも追加できるものがあるのではないかと考える。できるだけ形にこだわらないで、いろいろな取組を積極的に実施するよう努められたい。</p> <p>◎ 情報発信の方法について、年齢層によって情報を受け取る媒体が異なるため、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など、いろいろなメディアをどう活用するかを戦略的に考え、今後の江別市を支える10代から30代という若い世代の方にも特化した対応も検討されたい。</p> <p>◎ 市外の方が、どの情報に興味を持つかわからないので、行政だけではなく、商工会議所や観光協会、不動産業界などの様々な団体が協働して、いろいろな情報を組み合わせた企画を市外で実施することを検討されたい。</p> <p>◎ まちづくり政策09に「透明性の高い市政の推進」とあるが、この政策の取組は、市民に対する内容だけであると見受けられることから、市外の人に「住んでもらうため」、「来てもらうため」のイメージづくりという内容をアピールするために、当行政審議会で見聞として出された取組などの意見をどのように戦略的に盛り込めばよいかをさらに検討されたい。</p>